# ワールドカップ観戦の魅力

会員　石黒 清子（43 期）

兄の影響でサッカーが好きになった。はじめは，高校サッカーをテレビで楽しむだけだったが，1993年にJリーグが開幕，翌年，当時，私の実家近くにあったジュビロ磐田のJリーグ加盟を機に私のサッカー愛に火がついた。今期，残念ながら，ジュビロ磐田は，J2に落ちてしまったが，私の大好きな遠藤保仁選手が所属していることもあり，今も応援を続けている。

しかし，私の最大の楽しみは，どこか一つのチームではなく，日本代表の試合を観戦すること，中でも4年に1回開催されるワールドカップ日本代表戦の観戦旅行にある。2002年の日本・韓国共同開催の際はチケットを入手できずスタジアムで試合を見ることはできなかったが，2006年のドイツ大会，2014年のブラジル大会，2018年のロシア大会，そして昨年2022年のカタール大会には，友人とともに現地スタジアムを訪れた。

昨年のカタール大会は，コロナがまだ収束しきっておらず，ロシアのウクライナ侵攻も続いている最中であったこと，スタジアムやインフラ整備のための出稼ぎ外国人労働者の人権問題等によりワールドカップ開催には厳しい批判も出ていたこと等から，観戦旅行に出かけること自体に躊躇もあった。それでも，4年間，楽しみにしてきた思い入れもあり，意を決して出かけることにした。

ワールドカップ観戦旅行の魅力は，世界有数の名選手のすばらしいプレーを直に，そして俯瞰的に見られること，観戦のために普通の観光旅行では決して訪れないようなスタジアムのある中小の街を訪問すること，時を同じくして世界中からやってくるサッカーを愛する人々とサッカーという共通言語の下，交流し親睦を深めることができること等にある。日本代表のユニフォームを着た私たちを見つけると，至る所で，国籍・人種を問わず，多くの人々が，「日本大好き」，「日本に行きたい」等々と気軽に声をかけ，日本が敗北すれば「残念だったね。次は勝つよ」等と言って私たちを励まし，勝利すれば「日本強いね。すごい」等と言って一緒に喜んでくれる。日本が世界中から愛されていることを実感する嬉しい瞬間である。

ハリファ国際スタジアム（カタール）日本対スペイン戦

日本国内では，日の丸掲揚や君が代斉唱が憲法問題として訴訟で争われたりもするが，言葉も通じず，右も左もわからない海外に出て不安を感じている時，日の丸を目にしたり，君が代を耳にしたりすれば，なぜかホッとして安心するのも事実である。また，ワールドカップのスタジアムにおいて，日の丸をつけて戦う日本代表選手を見ると，同胞として胸が熱くなり自然に応援の声を張り上げ，負ければともに涙し，勝てばともに歓喜し日本人としての誇りを感じる。

同時に，こうした経験をすることにより，同じ思いをしているであろう他人や他国に対する思いやりや敬意の気持ちも育まれているように思う。

今年は，バスケットボールワールドカップがフィリピン・インドネシア・日本で8月25日から，ラグビーワールドカップがフランスのパリで9月8日から開催される予定である。ぜひ，皆さんも現地を訪れ，テレビ観戦ではできない国際親善を行ってみてはどうだろう。そこでは，難しい言葉なんて必要ないとわかるはず。